第 5 回　マチごとゼロカーボン市民会議　会議録

■　日時・場所

日時：2022 年 12 月 18 日（日）13:00～17:00
場所：所沢市役所　市庁舎高層棟 8 階大会議室

■　　出席者

参加者：40 名（欠席 11 名）
話題提供： 平塚基志氏（早稲田大学）
司　会（全体ファシリテーター）：平塚基志氏（早稲田大学）
グループファシリテーター　　：所沢市職員
グループサブファシリテーター　：早稲田大学学生

■　プログラム

13:00	10 分	開会・副市長挨拶・ これまでの振り返り	
13:10	15 分	チェックイン	参加者の近況のシェア
13:25	10 分	投票結果の共有 所沢市マチごとエコタウン推進課より	
13:35	15 分	投票結果についての感想共有	
13:50	10 分	テーマ『里山の利用等』 話題提供 平塚基志氏より	里山は CO_2を吸収するのか？地域で里山を活かすには？
14:00	15 分	休憩	
14:15	55 分	グループワーク 1『所沢市の将来像について』	グループで話し合い、全体にシェア
15:10	15 分	休憩	
15:25	60 分	グループワーク 2『対策アイデアの整理』	グループで話し合い、全体にシェア
16:25	20 分	チェックアウト	1 人 1 言感想
16:45	10 分	講評　所沢市長	
16:55	5 分	閉会	感謝状の贈呈、参加者アンケート

配布資料

資料１　第５回マチごとゼロカーボン市民会議タイムテーブル
資料２　マチごとゼロカーボン市民会議　投票結果（速報版）
資料３　話題提供　里山は CO_2を吸収するのか？地域で里山を活かすには？（平塚基志氏）
資料４　第５回マチごとゼロカーボン市民会議　アンケート票
参考資料１　埼玉の緩和対策一覧
参考資料２　投票項目一覧

■　記録

１　開会・副市長挨拶・振り返り

はじめに、中村副市長より挨拶を行った。続いてこれまでの市民会議の振り返りを行い、参加者から寄せられた意見を共有した。また、第 5 回の進め方について、居住地区に応じて割り振られた 6 つのグループ（東 1、東 2、中央 1、中央 2、西 1、西 2）に分かれ、各地区の特徴を踏まえて対話を行っていくことを説明した。

２　自己紹介

チェックインとして、グループ内での自己紹介を実施した。用紙に「①ニックネーム、②居住地区の特徴（好きなところ）、③ちょっと進んだゼロカーボン」の 3 点を書き込み、グループ内で共有した。

３　投票結果の共有と感想の共有

第 4 回市民会議の後に実施した投票（6 テーマ・全 28 施策）の結果について、マチごとエコタウン推進課より説明を行った（資料 2・参考資料 2。なお資料 2 は期限までに回答した 42 名分の回答を集計した速報版である。全参加者の回答は別途取りまとめる）。

これを受けて、結果についての感想をグループ内で話し合い、共有した。感想はサブファシリテーターが付箋にメモし、模造紙に貼っていく形とした。

４　テーマ　『里山の利用等』　話題提供

市民会議の最後のテーマである「里山の利用等」について、「里山は CO_2 を吸収しているか？地域で里山を活かすには？」をテーマとして、早稲田大学人間科学学術院の平塚基志氏より話題提供が行われた（資料 3）。

初めに、北半球の CO_2 濃度が変動していることを図示し、その理由として森林が CO_2 を吸収する倉庫の役割を果たしていることを説明した。これに関し、所沢市の森林面積は減少傾向にあること、いわば倉庫が満杯に近づいている状況であること、1960～1970 年代と比較すると森林内の太陽光や林床植生などのモザイク構造が減っていること（里山の均一化）などを解説した。

続いて、落葉の利用によるカーボンの貯蔵の事例（武蔵野の落ち葉堆肥農法）について、里山から落葉を持ち出し、堆肥化して農地で活用する場合、里山では CO_2 の吸収と排出の収支が合い、農地では CO_2 吸収を増加させることができることを示した。

最後に、里山が提供している多くのサービス（里山の効用）に関し、生物多様性の保全や温暖化対策、地域住民の生活や木材生産などの全ての機能を同時に向上させることは難しく、地域に適したバランスを維持することが重要になることを解説した。

5　グループワーク

参加者は、6 つのグループ（東 1、東 2、中央 1、中央 2、西 1、西 2）に分かれてグループワークを行った。

5－1　ワーク 1　『所沢市の将来像について（マチごとゼロカーボン将来像）』

ワーク 1 では、所沢市の将来像について、模造紙に貼られた大判のイラスト「マチごとゼロカーボン将来像案」を用いて対話を行った。

ワークは、「①将来像案を確認⇒②将来像案への気づきを共有⇒③将来像案の改善を付箋で加える⇒④全体共有」という 4 段階で進められた。（参考資料 1 及び 2 を使用）

①では将来像のイラストをグループ全員で見ながら、投票項目が反映されているか、これまでの対話の内容が反映されているか等を確認し、②では地区の特徴を踏まえて追加すべき点や困難な点を挙げ、「自分が実際に行うには」という視点からの意見交換を行った。③では、②の意見を反映し、将来像の改善点を付箋で示した。

最後の④では、全グループが「地区の特徴を踏まえての改善」を中心に、対話の結果を全体に共有した。要旨は以下のとおりである。

〔東 1〕将来像案からは教育が欠落しているので、ゼロカーボンに関する教育を補完してほしい。また、モビリティの削減が大きなテーマになっているが、私たちの地区では車を無視できない。歩行者・自転車優先といっても、マナーも含めきちんと教育していく必要がある。車に乗る人が白い目で見られると分断につながる。車との共存が大前提にあるべきで、車を使いたい人の意見も併記すべきだし、パークアンドライドなどの仕組みを考えてもいいのではないか。若い人からも我慢ばかりではきついという意見も出た。

〔東 2〕私たちの地区は、住宅街でもなく山があるわけでもない土地柄で、平坦であり、畑やちょっとした森が多い。地域の住民と企業とが協働して畑をうまく利用したり蜂を育てたり、企業の協力のもと工場の屋根に太陽光パネルの設置を推進するという意見が出た。また、乗り物に関しては、空飛ぶ車（ドローン）や自動運転など近未来の乗り物をどんどん推奨する。これに伴いマンションに充電施設を設けていくという意見が出た。

〔中央 1〕市街地で色々なお店があり、車を使わなくても生活しやすい地域である。提案として、①自転車が通れる道があまりないため、車が通れない徒歩・自転車専用道路を思い切って増やしてはどうか。②マンションにも充電スタンドがないと電気自動車（EV）に買い替えにくい。（戸建と異なり個人で対応が難しいので）設けるようにしてほしい。③駅前に野菜スタンドを設けるなど、身近なところで地域の野菜を買えるようにしてほしい。④ソーラーパネルをカーシェアリングの施設に付け、できた電気を EV で使えるようになるとよい。⑤自転車置き場がお店に少ないので増やしてほしい。⑥里山を「守ろう」というと後ろ向きな感じがするので、増やす方向で考えていきたい。

〔中央 2〕意識が高い人であれば実現できる取組は多いが、多くの人はそこまで関心がなくあまり意識していないことが考えられる。このため、興味がない人でもいつの間にか貢献できる仕組みが一番よい。例として、街中のゴミ箱が必要な場所にあり日常や町に溶け込んでいれば自然に分別・リサイクルに貢献できる。また地産地消の推進では、地元の有機栽培の野菜などをスーパーで分かるように売る。特別高いお金を出すのではなく、日常の中で普通に生活しつつ貢献できることをピックアップして考えていきたい。

〔西 1〕私たちの地区は、現在は西武球場（ベルーナドーム）、狭山湖、お茶などが「点」として存在している。この現状を伸ばしていき、点を「線」で結ぶ将来像にする。現在は線に当たる道路が非常に貧弱であり、車中心の道路なので歩道が狭く、通学路もないような状態である。緑はあるが子育てするための遊び場が少ない。ポテンシャルはまだまだある。

〔西 2〕重要なのは教育である。実際に知る必要があるのは学生だけではないため、学校だけでなく学習塾やスポーツクラブなどに学びの場を広げていく。また、公民館など誰もが使う場所での情報発信が大切である。自主的に情報に接することが教育である。その他の提案として、①一つ一つ・一人一人の取組では効率が悪いので、まとまった行動・取組を積極的に行う。②広い面積を持つベルーナドームの屋根を全面ソーラーパネルにする。③駅の利用者向けに朝市や夕市で地元の物を売ると地産地消に貢献できる。④スーパーから遠い団地を対象とした移動スーパーがあると個々人が移動するより効率がよい。

〔質問 1〕（中央 2 に）何よりも市民の意識が必要という点でなるほどと思わされた。具体的な案があれば聞きたい。

〔回答〕ゴミ箱の話が大きい。現状はペットボトルを捨てようとしても自販機横のゴミ箱はどこも溢れ返っているため、計画的にゴミ箱を増やしていく。皆が意識しなくても生活の動線の中でゴミ箱が配置されている状況が実現できればよいという話が出た。

〔意見〕（中央 1 に）駅の周辺を自転車・歩行者専用道路にするという意見について、私たちの東地区は駅も少なく、バスなどの公共交通機関も貧弱で、駅にも車で行かないといけない距離に住む人も多い。ゼロカーボンの視点からは専用道路の提案はとてもよいことだが、他の地域の事情も考慮してほしい。

〔質問 2〕（東と西の地区に）私たちの中央 2 では交通の便はあまり困らない。東と西の地区では車移動の方が多いと思うが、バスの本数を増やしたり停車場を大きくしたりした方がよいのか。今ある機能を活用したらいいという意見を強く出されたところはあるか。

（挙手　少数）

皆車を持っていて困っておらず、それよりも整備をしてほしいということなのか。

〔回答〕私は東 1 で、最寄り駅まで徒歩 1 時間ほどのところに住んでいる。周辺ではほぼ 95％の人が車を持っている地区で、「楽・便利・速い・安い」と揃っているので車を使うという人は多い。通勤や通学では頑張ってバスや自転車を使うが、それらをやった上で、車と公共交通機関と徒歩・自転車の共存がないと難しい地区があるということ。コロナ禍ではバスの便数が減った。満車になっていないので増便は経済的にも現実的でない。ライドシェアや既存のタクシーなどでやりくりしていくのが現状ではないか。

5－2　ワーク２　『対策アイデアの整理』

続くワーク 2 では、各自が住む地区でどのように対策を進めていくかについて対話を行った。ここでは模造紙を使って「縦軸：取組時期（中期的⇔今すぐ・既に）」と「横軸：日常生活の変化の大きさ（容易⇔障壁を伴う）」の二軸による四象限図を作り、28 の投票項目（施策）が印刷された付箋をふさわしいと思う位置に貼り付けていく形をとった。

ワークは、「①投票した施策案を確認⇒②施策案の重要性について対話⇒③施策案を模造紙に貼る⇒④全体共有」という 4 段階で進められた。（参考資料 1 及び 2 を使用）

①及び②では特に「それぞれの地区での日常生活」を踏まえた対話を行うことに重点を置き、司会者からも、地区や世代によって考え方の傾向が異なる場合があることを投票結果のグラフを用いて例示した。③では、地区の特徴に関する対話を反映させて全 28 の付箋を模造紙に貼り付けた。

最後の④では、全グループが「地区の特徴を踏まえて重要視する施策」を中心に、対話の結果を全体に共有した。要旨は以下のとおりである。

〔西 1〕付箋は図の左下（すぐ取り組める・容易）に集中した。リユース・リサイクル商品の促進（施策 2）や緑を増やす（施策 17）など、CO_2 の発生抑制や吸収が基本的コンセプトである。図の右上（中期的・障壁を伴う）は再生可能エネルギー関係の意見（施策 10・12・14）で、これにより CO_2 の発生をなるべく抑える。また、最終的には教育が大事である。未来の子供たちがしっかりと学び、生活の中から CO_2 を少しずつ減らすことで、所沢・世界をよくしていくことになると思う。なお左上（中期的・容易）は意見が非常に出にくかった。一点、自家用車を使わなくていいまちづくり（施策 20）は、取り組みやすさはあるが非常に壮大ですぐには実現できない。取組は必要だが、最終的なゴールは先になるという意見である。

〔西 2〕図の左下（すぐ取り組める・容易）が最も多く、教育を通じた連携（施策 25）、容器包装（施策 1）、リユース・リサイクル（施策 2）などが挙がった。少し難しいもので、省エネ型ライフスタイル（施策 16）、マチごとゼロカーボンを協働で進める体制づくり（施策 28）、自転車・徒歩の移動促進（施策 18）については意見が割れた。車や徒歩移動が多い地域であることも関係している。まちに緑を増やすこと（施策 17）は、個人でやるのは簡単だが企業単位だと難しい。この他、図の左上（中期的・容易）は市民活動促進（施策 13）のみ、右上（中期的・障壁を伴う）は道路整備（施策 23）、地域の再エネ設備設置（施策 14）となった。

〔中央 1〕図の左下（すぐ取り組める・容易）では、食品ロス削減（施策 7）、教育を通じた連携（施策 25）等が挙がった。このうち地域での連携に関する施策（施策 24・26・27・28）に関して、月 1 回カフェ会を設けて情報共有している自治会もある。高齢化で機能していない自治会も多いが、よくやっている自治会から情報がそちらに流れていくとよい。次にリユース・リサイクルの促進（施策 2）に関しては、不用品を集めて得たお金をインフラ整備等に充てるという意見が出た。また、図の右上（中期的・障壁を伴う）に関し、まちに緑を増やすこと（施策 17）は簡単そうだが、マンション等では場所が限られるし、壁面緑化も時間がかかるなどで難しいのが現状ではないかという意見が出た。

〔中央 2〕28 の施策を一つずつ判断し配置していったところ右上（中期的・障壁を伴う）には企業や行政の協力が必要で個人では始められないこと、左下（すぐ取り組める・容易）には個人の意識次第ですぐ始められること、という共通点が見受けられた。その後地域の特色に合わせて振り分け直した。中央では徒歩・自転車移動の促進（施策 18）は既によくできている。一方で、CO_2 の「倉庫」となり得る緑を増やす（施策 17）のは、中央では土地に余裕がなく難しいのではないか。これについて、駐車場を芝生にするという意見が出た。アスファルトの場合と比較して照り返しを減らし、ヒートアイランド現象を抑制する効果もある。現在あるものを有効利用し、今できることから進めていくのがよい。

〔東 1〕優先的に取り組むべき項目として、移動と教育・啓蒙に関するものが挙がった。新しく設備を作らなくても呼び掛けによってゼロカーボン達成に近づけるものが左下（すぐ取り組める・容易）の近くに集まった。コミュニティの取組促進（施策 27）は小さいエリアでもできるし、エネルギーに関する市民活動（施策 13）は活動内容のポスターをスーパーなどに掲載できたらよい。また、自転車・徒歩での移動（施策 18）やバス利用（施策 19）の呼び掛けもすぐ実行できる。一方で、所沢市の東方面は自動車がないと生活できないのに自動車での移動が不便な所も多い。渋滞や入り組んだ道路などが理由で CO_2 が発生しているため、道路整備により輸送の効率化や移動時間の削減が進むとよい。

〔東 2〕左下（すぐ取り組める・容易）には個人が意識すれば簡単にできる施策が集まった。例えば自転車・徒歩での移動促進（施策 18）は啓蒙・教育をして実践しようと言えばすぐできる。他方、右下（すぐ取り組める・障壁を伴う）は、コミュニティでの取組促進（施策 27）など地域でないと難しいこともある。例えば町の中心に自動車で行く場合、買い物額に応じて無料駐車券をもらえるが、自転車の場合はそれがない。（駐輪場や無料券の）導入は個人では難しく、インフラや初期費用についてステークホルダーの理解が必要になる。また、右上（中期的・障壁を伴う）は関係先と調整しながら年月をかけて理解を進める必要がある。これに関し、マチごとゼロカーボンを協働で進める体制（施策 28）は非常に大切だが、30 年後（中期的）ではなくできることから始めた方がいいため、「すぐ取り組める」のエリアに置いた。一歩踏み出すことが大事である。

6　チェックアウト

全 5 回の会議の内容を取りまとめた報告書の作成から環境審議会提出に向けた予定等について説明した。その後、グループ内で感想を述べ合い、各地区から 1 名が全体に向けて発表した。

7　講評（藤本市長）

藤本市長より挨拶と講評を行った。概要は以下のとおりである。

5 回にわたり色々な提案をいただきお礼申し上げる。去年 1 月頃に市民会議の実施を決めた際、市議会と執行部は環境という共通のテーマに向かい共に前を見て進まなくてはならず、そのためには市民から直接意見を聞いて議会に提出することで皆の賛同を得られると考えた。

この度集まっていただいた皆さんは、最先端の話を聞きながら、2030 年～2050 年について自分事として頭を悩ませてくれたことと思う。皆さんからいただいた意見はとても大切な宝物としてこれから環境審議会に提出、議論され、審議会が提案してくれるルートを通っていくことになる。

私は実はこの会議が終わらないでほしいと思っている。仲間もできたのではないだろうか。ネットワークは非常に大切で、力が溢れてくるし、色々なことが生まれてくるので、できれば仲間を残してほしい。今、市職員は脱炭素と人を中心としたマチづくりに向けて皆さんと同じ気持ちで進もうとしている。ぜひこれからも力を貸してほしいし、職員を叱咤激励してほしい。この度の仲間が仲間のままで、もっと大きなうねりになることを切に願っている。

8　閉会

感謝状の贈呈及び参加者アンケートを実施し、最後に記念撮影を行って全５回の市民会議を終了した。

以上